

## 【伴走支援のサマリ】

## 社会福祉法人 南恵会：ITインフラ環境の整備

産業分類

社員数\*1

P.医療, 福祉

161

## ①ビジョン（背景と目的）

- ✓ 南恵会の徳州園では、ITインフラが整備されておらず、非効率な業務を行っていた。
  1. 業務連絡や引継ぎ事項などは、業務の合間や紙を用いて行っていた
  2. 夜間時など、無断外出者を確認する方法がなく、1時間おきに全ての部屋を見て回っていた
- ✓ そのため、ITインフラを整備することで、業務負担の軽減を図ることが必要であった

## ②取組（ソリューションの内容）

- ✓ 引継ぎ連絡は、デジタル端末とグループウェアを用いて、業務連絡を行える環境を整備した。
- ✓ 具体的には、タブレットや携帯とLINE WORKSを用いて、業務の引継ぎ等を行っている。
- ✓ また無断外出者の検出には、施設内全域に監視カメラを設置することで、どこから外出したのかを効率よく把握できるようにし、探索時間の短縮化を行った。

## ③取組（課題や難所と、その対応）

- ✓ 離島かつ高台に施設があるということもあり、インターネット通信が安定しない状態であった。
- ✓ そのため、アクセスポイントの拡充を行い、監視カメラやタブレットの使用に耐えうる環境を整備した。
- ✓ また南恵会として、IT担当者がいない状態であったため、新たにIT担当者を設ける事で、徳州園だけではなく、南恵会全体として、IT資産をメンテナンスできる体制を構築した

## ④得られた成果

## 【定量的な成果】

- ✓ オンライン会議開催頻度：0回/月 → 6回/月
- ✓ 徘徊者の検索による時間外労働時間：20時間/月 → 0時間/月

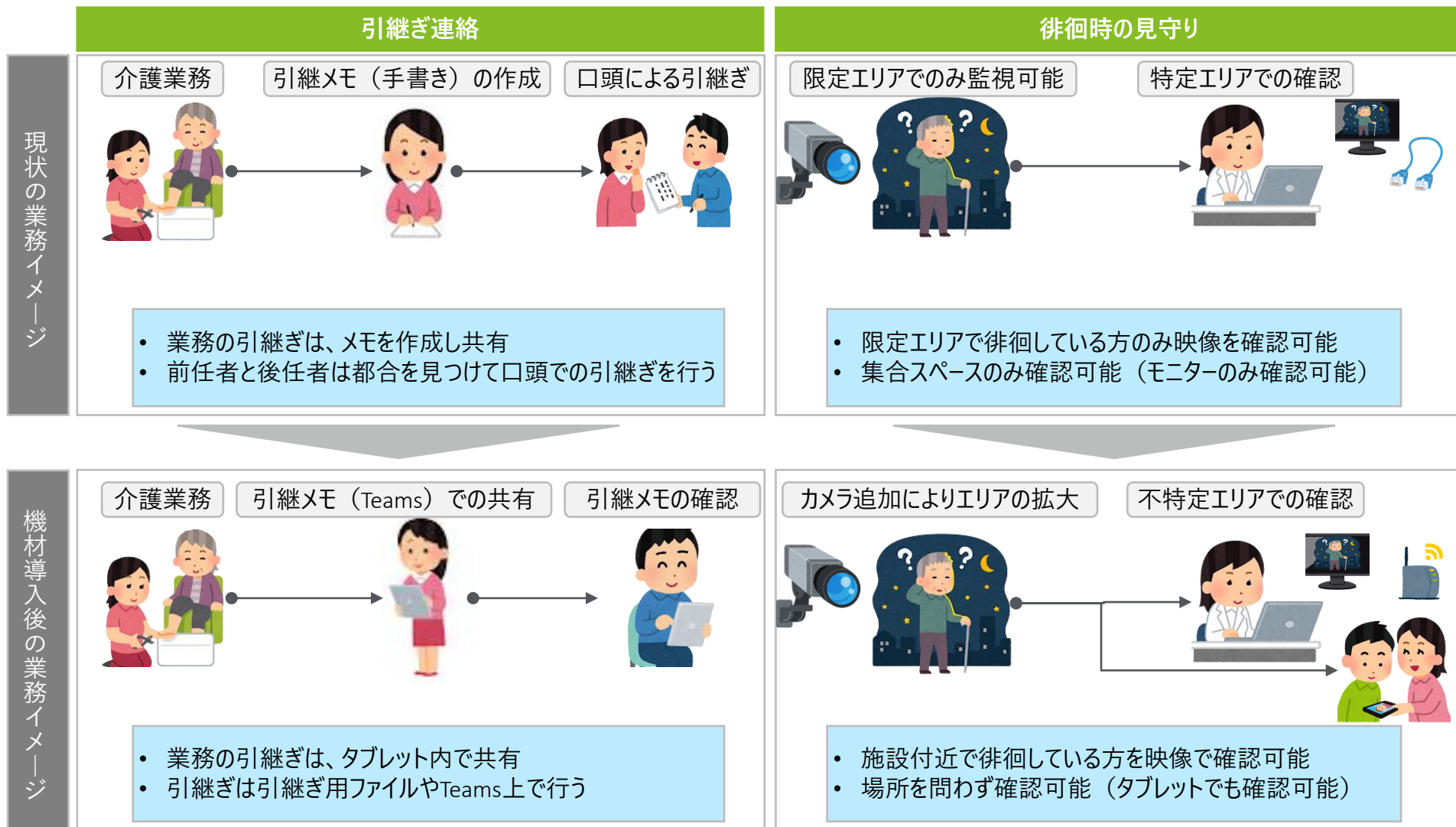
## 【定性的な成果】

- ✓ デジタル機器やチャットツールの活用より、「引継ぎ事項」や「伝達事項」等が簡素化され、職員間のコミュニケーションの負担が軽減した
- ✓ 見守り環境が施設内全域になった事で、無断外出者の未然防止が可能になった。また夜間時の休憩時間も確保しやすくなった

\*1：2021/3月時点 モデル候補企業の応募受付時情報より

# 本事業では、引継ぎ連絡のIT化と、見守り環境の拡大を検討対象とした

## 本事業の検討対象



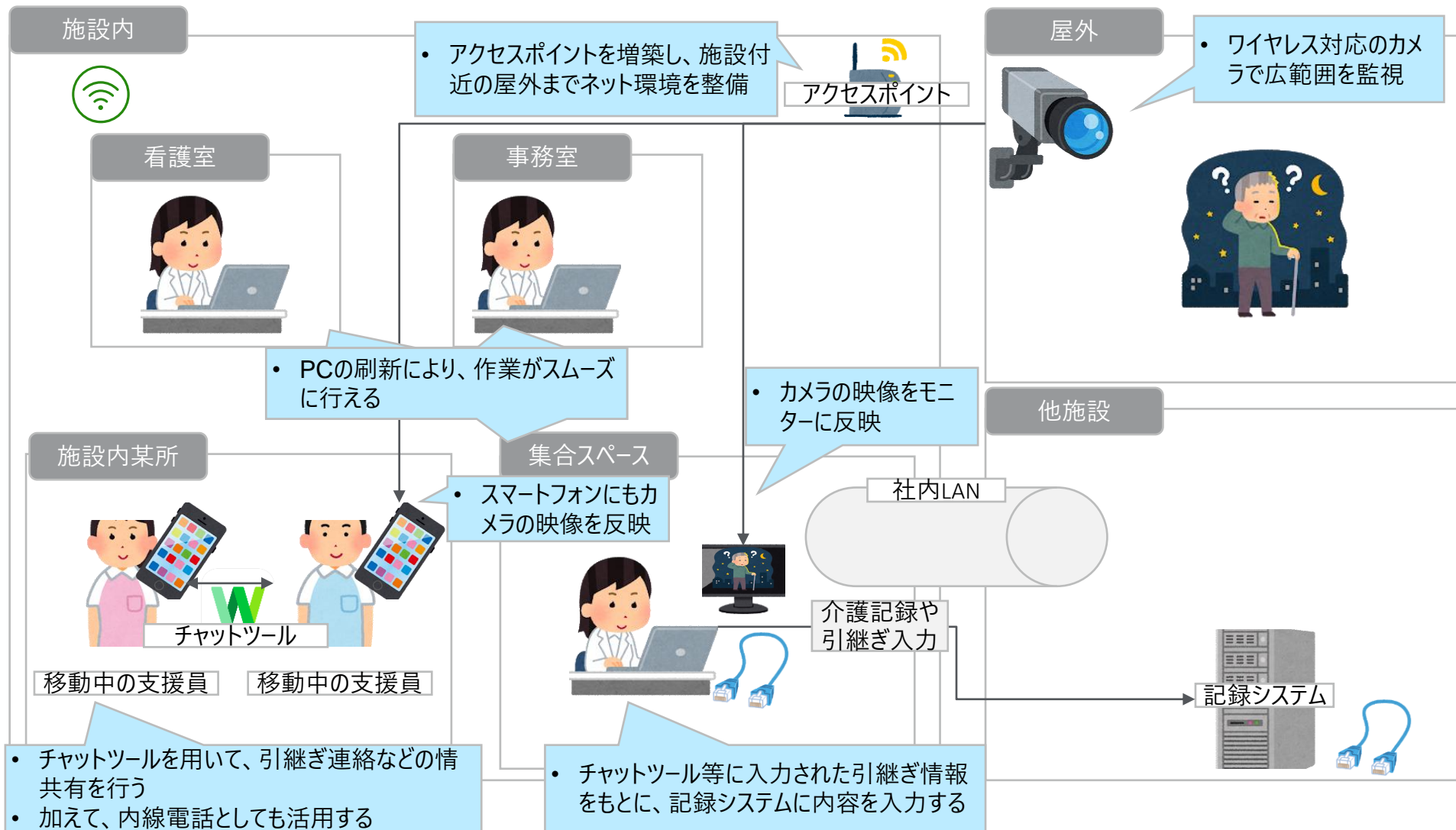
# 法人内にITスキルを持った方がいないため、諸課題が徳州園で発生している 法人全体のIT担当者を置くことが必要である

## システム関連の課題と対策案

課題	課題の具体内容	対策案
① 機材やシステムの管理ができていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>各施設の機材やシステムの状況を整理していないため、適切な機材の配置が行えない</li> <li>徳州園では支援記録を登録するパソコンが少なく入力できない状況が発生していた</li> </ul>	<p><b>IT担当者を法人に置くことで、グループ全体のIT周りを管理する事が可能</b></p> <p>(施設ごとに担当者を立てる余裕はないため)</p>
② 軽微なトラブルに対応できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>IT知識を持っている相談先が組織内にいないため、軽微なトラブルでも機器（プリンターやネットワーク、カメラ等）が利用できなくなっている</li> <li>徳州園では監視カメラやプリンターがOSの更新により一部利用ができない状況が続いていた</li> </ul>	
③ 今後の検討ができる余裕がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新のITソリューション導入などで業務が簡素化される余地があったとしてもそれらを企画し導入する推進役がない</li> <li>徳州園ではナースコールシステム、支援記録システムが古すぎて業務負担が大きくなっている</li> </ul>	

# ITインフラ環境の整備には、PCやタブレット・監視カメラ・アクセスポイント等の準備を整える

## ITインフラ環境の整備イメージ



# 今回の取組によって期待される費用対効果は、以下の通りである

## 申請時点での目標設定と効果測定結果

目標	実績	内容	現状
<p>■ 通信機器活用(DX)の成果</p>	<p>デジタル機器やチャットツールを活用する事で、「引継ぎ事項」や「伝達事項」がスムーズに共有されるようになり、職員間のコミュニケーションの負担が軽減した。またチャット内では、常に情報が共有されている状態のため、「発注ミスの削減」にも貢献している。結果的に、「効率的に時間が使える状態になった」と感じている職員が増えている状態である。</p> <p>加えて、オンライン会議を導入した事で、システム導入前に比べ、職員の会議出席回数も月6回、増加する事ができている状態である。今後は、デジタル機器を「資格取得に向けたオンライン講座の受講」の活用にも使用できないか検討を行っている</p>	<p>引継ぎ漏れ件数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・17件/日→10件/日</li> </ul> <p>オンライン会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10回/月</li> </ul> <p>オンライン朝礼</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・22日/月</li> </ul>	<p>引継ぎのためのツールがPC、紙ベース、ラインなど統一されておらず、数種類あるにもかかわらず、全職員への通達が不十分である。</p>
<p>■ 業務コスト削減の成果</p>	<p>見守り環境が限定エリアではなく、施設内全域に拡充された事で、無断外出者を未然に防げるようになり、検索にかかる人件費がほぼ20時間/月分軽減された。目標は達成された一方で見守り環境を使いこなせていない職員がいるため、当該職員に教育を行う必要性はある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り環境の高度化により利用者様の無断外出を未然に防ぎ、検索に係る人件費（時間外勤務手当）のコスト削減を目指す。</li> <li>・総検索時間20時間/月→5時間/月</li> </ul>	<p>夜間帯の利用者様検索活動のため、日勤帯の職員に時間外勤務をしてもらうことがある。</p>
<p>■ 働きがい向上の成果</p>	<p>PCやタブレットの通信機器活用や見守りカメラの導入によって、夜間帯の巡回時の負担が軽減され、休憩時間を確保できるようになったことで職員の満足度は向上した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り環境の高度化によって、夜間巡回時の負担を軽減し、夜勤職員の休憩時間を確保する。</li> <li>・見守り環境の高度化により利用者様の無断外出を未然に防ぐことで時間外勤務を減らす。</li> </ul>	<p>夜間帯の職員配置は3名で利用者支援を行っている。精神状態の不安定な利用者様の無断外出にも対応しており、休憩も充分に取れない日がある。</p>